

源氏物語

篝火

紫式部

青空文庫

大きなるまゆみのもとに美しくかがり

火もえて涼風ぞ吹く
(晶子)

このごろ、世間では内大臣の新令嬢という言葉を何かのことにつけては言うのを源氏の大臣は聞いて、

「ともかくも深窓に置かれる娘を、最初は大騒ぎもして迎えておきながら、今では世間へ笑いの材料に呈供しているような大臣の気持ちか理解できない。自尊心の強い性質から、ほかで育った娘の出来のよしあしも考えずに呼び寄せたあとで、気に入らない不愉快さを、そうした侮辱的扱いで紛らしているのであろう。実質

はともかくも周囲の人が愛でつくろえば世間体をよくすることもできるものなだけけれど」

と言つて愛されない令嬢に同情していた。そんなことも聞いて

たまかざら

玉鬘は親であつてもどんな性格であるとも知らずに接近して

行つては恥ずかしい目にあうことが自分にないとも思われないと感じた。右近もそれを強めたような意見を告げた。迷惑な恋心は持たれているが、そうかといつて無理をしいようともせず愛情はますます深く感ぜられる源氏であつたから、ようやく玉鬘も不安なしに親しむことができるようになった。

秋にもなつた。風が涼しく吹いて身にしむ思いのそそられる時であるから、恋しい玉鬘の所へ源氏は始終来て、一日をそこで暮

らすようなことがあった。琴を教えたりもしていた。五、六日ごろの夕月は早く落ちてしまつて、涼しい色の曇つた空のもとでは荻おぎの葉が哀れに鳴つていた。琴を枕まくらにして源氏と玉鬘とは並んで仮寝かりねをしていた。こんなみじめな境地はないであろうと源氏は歎た息んそくをしながら夜ふかしをしていたが、人が怪しむことをはばか

つて帰つて行こうとして、前の庭かがりの篝かが少し消えかかっているのを、ついて来ていた右近衛うこんえの丞じょうに命じてさらに燃やさせた。涼しい流れの所におもしろい形で広がつた檀まゆみの木の下に美しい篝は燃え始めたのである。座敷のほうへはちようど涼しいほどの明りがさして、女の美しさが浮き出して見えた。髪の手ざわりの冷たいことなども艶えんな気がして、恥かずかしそうにしている様子が可憐かれんで

あつた源氏は立ち去る気になれないのである。

「始終こちらを見まわつて篝を絶やさぬようにするがいい。暑いころ、月のない間は庭に光のないのは気味の悪いものだからね」と右近の丞に言つていた。

「篝火に立ち添ふ恋の煙こそ世には絶えせぬほのほ焰なりけれ

いつまでもこの状態でいなければならぬのでしよう、苦しい下燃えというものですよ」

玉鬘にはこう言つた。女はまた奇怪なことがささやかれると思つて、

「行方ゆくへなき空に消けちてよかがり火のたよりにたぐふ煙とならば

人が不思議に思います」

と言った。源氏は困ったように見えた。

「さあ帰りますよ」

源氏が御簾みすから出る時に、東の対のほうに上手じょうずな笛ふえが十三絃げんの琴に合あわせて鳴なっているのが聞こえた。それは始終中将といつしよに遊あそんでいる公きん達たちのすさびであつた。

「頭中とうちゆう將しょうに違ちがいない。上手な笛の音だ」

こう言いつて源氏はそのままとどまつてしまつたのである。東の

対へ人をやって、

「今こちらにいます。篝の明りの涼しいのに引き止められてです」
と言わせると三人の公達がこちらへ来た。

「風の音秋になりにつけりと聞こえる笛が私をそそのかした」

琴を中から出させてなつかしいふうひに源氏は弾いた。源中将は
盤ばん涉しきちよう調てうに笛を吹いた。頭中将は晴れがましがって合奏の中へ
はいろいろとしないのを見て、

「おそいね」

と源氏は促した。弟の弁べんの少将が拍子を打ち出して、低音に歌
い始めた声が鈴虫の音のようであった。二度繰り返して歌わせた
あとで、源氏は和琴わごんを頭中将へ譲った。名手である父の大臣にも

あまり劣らず中将は巧妙に弾いた。

「御簾の中に琴の音をよく聞き分ける人がいるはずなのです。今夜は私への杯はあまりさささないようにしてほしい。青春を失った者は酔い泣きといっしょに過去の追憶が多くなつて取り乱すことになるだろうから」

と源氏の言うのを姫君も身に沁しんで聞いた。兄弟の縁のあるこの人たちに特別の注意が払われているのであるが、頭中将も、弁の少将も、そんなことは夢にも知らなんだ。中将は堪えがたい恋を音楽に託して思うぞんぶんに琴をかき鳴らしたい心を静かにおさえて、控え目な弾ひき方をしていた。

青空文庫情報

底本：「全訳源氏物語 中巻」角川文庫、角川書店

1971（昭和46）年11月30日改版初版発行

1994（平成6）年6月15日39版発行

※このファイルは、古典総合研究所 (<http://www.genji.co.jp/>) で入力されたものを、青空文庫形式にあらためて作成しました。

※校正には、2002（平成14）年1月15日44版を使用しました。

入力：上田英代

校正：kompass

2003年7月28日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

源氏物語

篝火

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

著者 紫式部

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>